

学 校 名	山形市立第十小学校	校長 佐 藤 典 子
	山形市やよい二丁目6番1号 TEL 643-4102 FAX 645-8590	研究主任 志 田 明 美
研 究 主 題	「共に生きる力を育む教育課程」 (3年次) — 学び合い、確かな力をつける学習の創造 —	
主 題 設 定 の 理 由	「学び合い」に焦点をあて2年間研究を進めてきた。子どもたちの実態をあらためて見つけ、どんな子どもに育てたいか語り合い、成果と課題を次のようにとらえている。 ○ 友と積極的に関わりをもつ学習活動を取り入れることで、一人ひとりの子どもが思いを表現し、話し合い、考えを深める力をつけてきている。 ○ 「学び合い」でこそ、子どもは、自分の学びを広げ、深め、高めることができる。また、それを支える学級・学年経営、集団作りの大切さを実感した。 ◇ 学習の価値を「学び合う＝友との関わり」ととらえてしまったところがあり、学び合っている姿はあるが、本時のねらいや教科のねらいが達成できているのかという反省点が多かった。 ◇ 「学び合い」を通して、学習のねらいに向かい、自分の学びをつくっていく力をつけること、その点を検証していくことが大事であることを確認した。 以上のことから、今年度は、より教科のねらいをおさえた学習の中で、子どもの興味・関心、活動や思考を見取り、子どもが自ら学びをつくる力を育てることで、もっと「確かな力」を一人ひとりにつけることができるという仮説をもち検証していきたいと考えた。 本校は、今年度から「二期制」に移行した。それに関わって、教育活動や学校のシステムを「子どもたちの学ぶ姿」から見直した。学習カリキュラムや評価の改善なども重要な課題である。これらを含めた研究実践の中で子どもの姿の伸びを語り、学習指導の改善をめざしたいと考える。	
目 標	日々の学習の改善・創造の中で、子どもが自分の学びをつくることのできる「確かな力」を身につけるための学習指導や教育課程のあり方を追究する。	
研 究 の 仮 説	I 子どもの興味・関心、実態をとらえ、願いや課題を大切にしながら、子どもが自ら学びをつくる力を重視した学習指導を工夫することで、確かな力をつけることができであろう。 II 教科の本質をおさえた学習を重視することで、学ぶ楽しさや成就感をもち確かな力をつけることができるであろう。 III 長期的なサイクルを生かし、「学びをつくる」という視点から、教科・学級・学年カリキュラムや評価の仕方・学習環境を創造していくことで、確かな力をつけることができるであろう。	

